

# ゼロカーボンニュース No.1 ZERO CARBON NEWS

令和3年10月発行 編集:茅ヶ崎市環境部環境政策課 0467-82-1111(代表)

私たちが目指すべき将来の茅ヶ崎市では、資源やエネルギーを無駄使いせず有効利用するよう心がけ、環境負荷を低減した循環型・低炭素型の生活や事業活動を実践するとともに、気候変動に適応した取り組みが進み、気候変動による影響を回避・軽減できるまちになっています。この将来像を目指すため、今、私たちが直面している環境課題、主に地球温暖化について、『ゼロカーボンニュース』として紹介していきます。

## ひとつとではない地球温暖化

地球温暖化により気候変動が大きくなり、洪水や大雨などの気象災害、農作物の生育被害が発生しています。気候変動の原因の一つとされている CO<sub>2</sub> の多くは化石燃料の利用に伴い排出されるもので、私たちの生活のありとあらゆるところから排出されます。

この問題はグローバルな環境問題ですが、同時に私たちの生活と密接に関係するローカルな課題でもあります。その原因の一端を一人ひとりが担っていることを意識し、行動することが重要です。

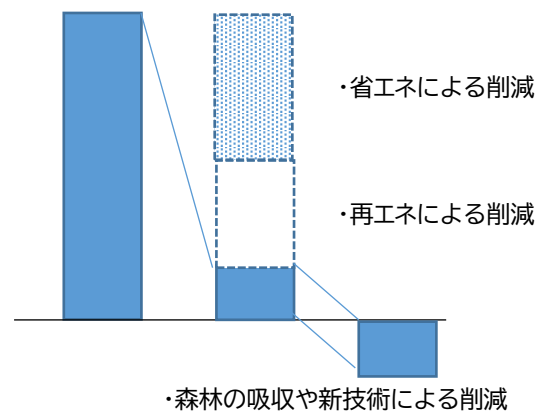
## ゼロカーボンとは？

2020年10月、菅内閣総理大臣による「2050年カーボンニュートラル宣言」が行われました。ゼロカーボンとカーボンニュートラルは、「CO<sub>2</sub> 排出量実質ゼロ」という同じ意味で使われています。

「省エネ」により排出する CO<sub>2</sub> をできるだけ削減し、必要なエネルギーは太陽光発電などの CO<sub>2</sub> を排出しない「再生可能エネルギー(再エネ)」でまかない、それでも排出されてしまった CO<sub>2</sub> は、森林の吸収や新技術により削減し、CO<sub>2</sub> がプラスマイナスゼロの状態のことを排出量実質ゼロといいます。

### ◎ゼロカーボンのイメージ

CO<sub>2</sub> 排出量



## 茅ヶ崎市・寒川町 気候非常事態宣言を表明！

茅ヶ崎市は、地球温暖化などの気候変動がもたらす危機的状況を、住民・事業者および団体の皆様が喫緊の課題として受け止め、気候変動対策に関して両市町がこれまで以上に連携し、市域を超えて取り組むため、「気候非常事態宣言」を4月1日に表明しました。

※本宣言は「ゼロカーボンシティ宣言」の内容も含まれます。



## 茅ヶ崎市の CO<sub>2</sub> 排出量

### 【市内の CO<sub>2</sub> 部門別排出量】 総排出量 118 万トン

部門	排出量	排出比率	備考
産業	52.5 万トン	44.5%	製造業、 農林水産業等
業務	17.4 万トン	14.7%	商業、サービス、 事業所
家庭	26.4 万トン	22.4%	住宅
運輸	19.3 万トン	16.4%	鉄道、自動車
廃棄物	2.3 万トン	1.9%	廃棄物の焼却処理

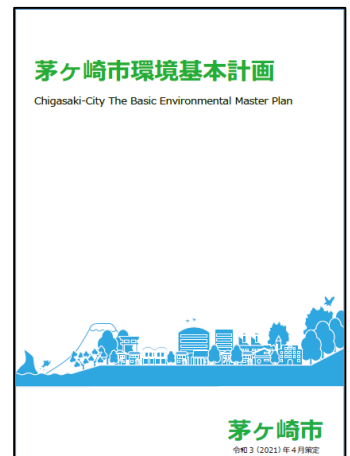
茅ヶ崎市域で1年間に排出される CO<sub>2</sub> は、118 万トンです (2018 年時点)。  
2050 年までに、この 118 万トンの CO<sub>2</sub> を、省エネや再生可能エネルギーの導入などで、『ゼロ』にしていかななくてはなりません。

## 新たな環境基本計画等がスタート！

茅ヶ崎市では、2021 年 4 月から新たな環境基本計画がスタートしました。この計画では、『気候変動に対応できるまち』の実現を目指し、省エネや再エネにより、市内の CO<sub>2</sub> を 2050 年の実質ゼロを見据えています。

そのため、まずは 2030 年度には 2013 年度比(パリ協定に基づく基準年度)で市内の CO<sub>2</sub> を 26%削減することを目標としています。

さらに気候変動の影響による被害を最小限とするため、地域の防災・減災力の強化を図りながら、気候変動対策の必要性の周知・啓発の推進を掲げています。



## できることから始めよう！

ゼロカーボンは、すべての人が取り組まなければ実現させることは困難です。しかし、地球温暖化の原因は私たちの日常生活や仕事に深く関わっていて、すぐにすべてを変えることはできません。

まずは継続してできることから取り組むことが必要です。不要な照明の消灯や照明器具の定期的な清掃、ごみの削減・分別の徹底、エコマークがついた物品の購入、急発進をしないエコドライブ等、一人ひとりの小さな取組の積み重ねが、大きな CO<sub>2</sub> 削減に繋がります。

身近なところからできることから始めましょう！

